

施策評価シート (平成26年度の振り返り、総括)

作成日 平成27年 06月 26日

施策 No.	2	施策名	良好な市街地の形成
主管課名	都市計画課	電話番号	0285-83-8152
関係課名	建設課、区画整理課、長田区画整理指導室、水道課、下水道課、福祉課、商工観光課、企画課、企業誘致課		

施策の対象	市街化区域 市街化区域の住民								
対象指標名	単位	20年度実績	21年度実績	22年度実績	23年度実績	24年度実績	25年度実績	26年度実績	26年度見込
市街化区域面積	ha	1,678	1,678	1,678	1,678	1,678	1,678	1,678	1,711
市街化区域の人口	人	45,263	45,019	45,347	44,868	45,038	45,273	45,594	51,800

施策の意図	住環境水準の向上を図る。 良好な街なみの形成を図る。								
成果指標設定の考え方及び指標の把握方法(算定式など)	都市計画課の調査データによる。 市民意向調査による。 住環境水準の向上を図る指標として市街化区域の整備率(第1~第5工業団地を含む)、市街化区域一人当たりの公園面積、都市計画道路整備率を使う。								
成果指標名	単位	20年度実績	21年度実績	22年度実績	23年度実績	24年度実績	25年度実績	26年度実績	26年度基本計画目標値
市街化区域整備率	%	71.3	72.3	72.8	73.4	73.8	74.2	74.5	74.7
市街化区域一人当たりの公園面積	平米	9.2	9.7	9.7	9.9	10.1	10.0	10.0	9.8
都市計画道路整備率	%	81.2	82.9	83.1	83.4	83.4	85.6	85.6	90.4
良好な市街地と感じている割合	%	82.9	88.3	79.1	81.0	81.5	81.7	83.0	

施策の成果向上に向けての住民と行政との役割分担	住民は、公共事業などに対して理解と協力をする。 行政は、未整備地域の整備を促進する。								
-------------------------	---	--	--	--	--	--	--	--	--

1. 施策の成果水準とその背景（近隣他市や以前との比較、特徴、その要因と考えられること）

（1）施策成果の時系列比較（過去3年間の比較）

・市街化区域の整備率は、平成26年度が74.5%で、平成24年度73.8%と比較して0.7ポイント上昇している。

これは、長田、亀山北、中郷・萩田土地区画整理事業の整備進捗が進んだことによるものである。

・1人当たりの公園面積については、平成26年度が10.0平方メートルで、平成24年度10.1平方メートルと比較して0.1平方メートル減少している。これは、平成26年度市街化区域の人口が45,594人で、平成24年度45,038人と比較して556人が増加していることによるものである。

国が示す一人当たりの標準公園面積5平方メートルに対し、2倍の水準にある。

・都市計画道路整備率は平成26年度が85.6%で、平成24年度83.4%と比較して2.2ポイント上昇している。

これは、国道408号鬼怒テクノ通りや亀山北土地区画整理事業による亀山八木岡線の整備進捗が進んだことによるものである。

（2）近隣他市との比較

・土地区画整理事業の整備率は45.1%で、14市中2位と高い水準にある。

（県内平均整備率:25.3%）

・1人当たりの公園面積は、都市データパック「住みよさランキング」より、全国で813市中66番目と高い水準にある。

・都市計画道路整備率は85.6%で14市中1位と高い水準にある。

（県内平均整備率:66.6%）

（3）住民期待水準との比較

・市街化区域内の「良好な市街地、どちらかといえば良好」と感じている人が83.0%と高い数値であったことは、土地区画整理事業が進むとともに、道路、公園の整備や上下水道整備が進んでいることが背景にあると考えられる。

26年度の
評価結果

2. 施策の成果実績に対してのこれまでの主な取り組み（事務事業）の総括

・実施している土地区画整理事業は、順調に進捗している。土地区画整理事業の実施により、長田、亀山北、中郷・萩田地区で道路整備、上下水道の整備が順次進められた。また、雨水対策事業として下水道の整備を行った。さらに、良好な市街地の形成に向けて、電線地中化に伴う水道管の布設替工事を実施した。これらのことが施策の成果に貢献し、住民の「良好な市街地だと感じる」ことにつながっていると思われる。

・公園や街路樹の維持管理では、市民から年間236件の苦情、要望が寄せられたが、いたずらによる設備の破損と、毛虫や落葉などの苦情が多い。これらの対応については、業者に修理や防除を依頼するほか、シルバー人材センターに落葉清掃を依頼し対処している。

・生垣づくり支援事業の実績は、9件（約168m）である。

・城山公園については、東日本大震災による災害復旧工事と切土工事が完了し、市民の憩いの場や防災などの観点から、多目的利用が可能となるよう、平成26度に城山公園再整備事業（公園整備工事）を実施した。

3. 施策の課題認識と改革改善の方向

- ・市街化区域においては、現在施行中の土地区画整理事業を中心とした個性ある街並み形成を図るとともに、栃木県屋外広告物条例による規制をはじめ電線地中化などによる良好な景観形成を推進する。また、すべての人にやさしい街路や公園、上下水道の整備などにより、「快適なくらしが実感できるまちづくり」に努める。
用途地域については、今後の街なみ形成の実現など、まちづくりの変化を考慮し、効率的な土地利用を誘導することにより良好な市街地の形成を図る。
- ・土地区画整理事業などの進捗により、整備された公園や街路樹の維持管理及び道路舗装の老朽化による補修などが、今後、増えていくことが予想される。良好な市街地形成のため、適正な保全と維持管理に努める。
- ・生垣づくり支援事業は緑化推進のほか、ブロック塀等に比べると地震による倒壊の危険性がなく、防災上にも有効なことから、平成24年度より市内全体に対象区域を広げた。平成27年度から新規事業として実施する石塀等撤去費補助事業とあわせ、引続き普及促進のため周知に努める。

26年度の
評価結果

補足事項

成果指標における市街化区域整備率の補足説明

【土地区画整理事業の整備完了済みの面積（886.1ha）とは、施行中で整備工事が完了した面積も含む】

$$\begin{aligned} \text{市街化区域整備率} &= \left[\text{土地区画整理事業の整備完了済みの面積（886.1ha）} + \right. \\ &\quad \left. \text{第1～第4工業団地面積（363.4ha）} \right] / \text{市街化区域面積（1,678ha）} \\ &= 74.5\% \end{aligned}$$

施策の成果水準とその背景における土地区画整理事業の整備率の補足説明

【土地区画整理事業完了地区面積（757.4ha）とは、完了した地区のみで、施工中の地区は含まない】

1. 市街化区域における土地区画整理事業の整備率

$$\begin{aligned} \text{市街化区域における土地区画整理事業の整備率} &= \text{土地区画整理事業完了地区面積（757.4ha）} / \\ &\quad \text{市街化区域面積（1,678ha）} \\ &= 45.1\% \end{aligned}$$

2. 市街化区域から第1～第4工業団地面積を除いた、土地区画整理事業の整備率

- ・土地区画整理事業の整備完了済みの面積（886.1ha、施行中も含む）
 - ・第1～第4工業団地面積（363.4ha、第5工業団地は土地区画整理事業による整備のため含まない）
- $$\begin{aligned} \text{土地区画整理事業の整備率} &= \text{土地区画整理事業の整備完了済みの面積（886.1ha）} / \\ &\quad \text{第1～第4工業団地面積を除く市街化区域面積（1,678ha - 363.4ha）} \\ &= 67.4\% \end{aligned}$$

3. 現在計画されている土地区画整理事業の整備率

$$\begin{aligned} \text{土地区画整理事業の整備率} &= \text{土地区画整理事業の整備完了済みの面積（886.1ha）} / \\ &\quad \text{土地区画整理事業の施行面積（922.1ha）} \\ &= 96.1\% \end{aligned}$$